



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



注射・採血時の神経損傷に注意!!

— あらためて学習・周知を —

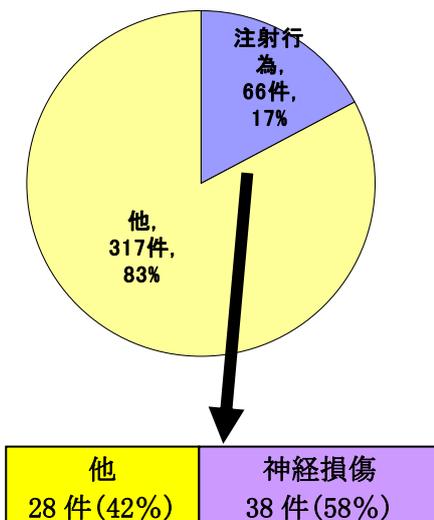
最近の警鐘的事例に「採血操作により神経損傷を来たした」報告がありました。肘正中皮静脈からの採血で手のしびれ、肩こりが生じ、その後、上肢全体の感覚障害と熱感へと「複合性局所疼痛症候群(CRPS)*」が疑われたものです。

注射行為に関わる「副作用」の頻度は不明ですが、ある時期の民医連医賠責保険集計 383 例(対人)でみると注射に関わる事故が 66 例、そのうち 38 例(57.6%)が神経損傷の事例でした(その 6 割に当たる 23 例が採血時のもの)。注射(採血)での神経損傷は決して少なくなく、穿刺時に異常な痛みを訴えた患者については申し送り事項などに記録して、注意深いフォローが必要と思われます。

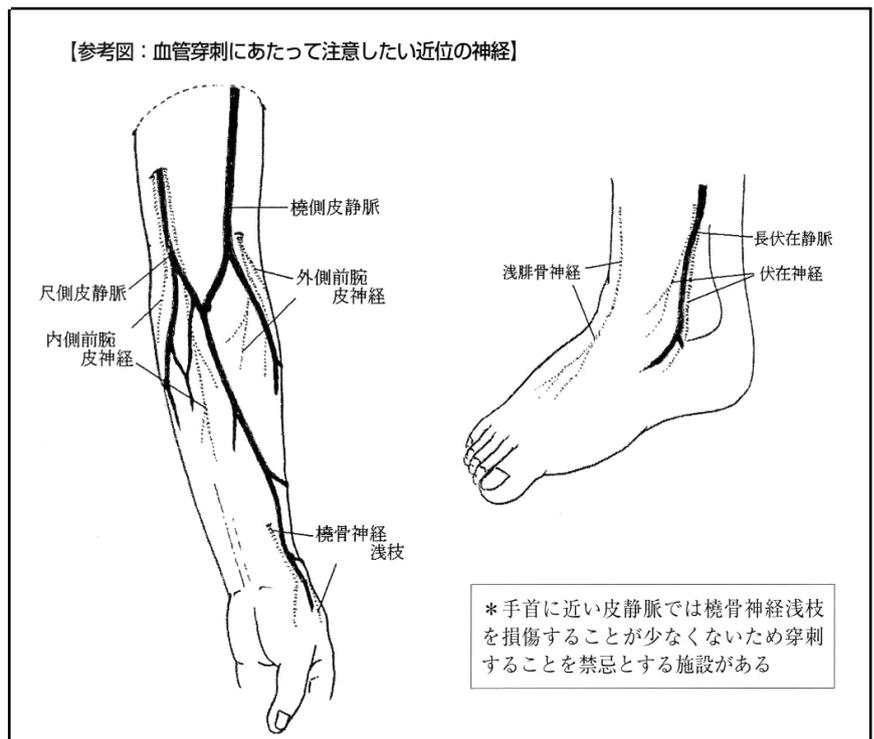
あらためて注射・採血時の神経損傷について、みんなで注意喚起しましょう。

<民医連の医賠責事例383例(対人)より>

注射行為に関わる事故の比率



右図:パンフ「みんなでとりくむ注射事故予防」資料 36 頁より



*) 複合性局所疼痛症候群 (Complex Regional Pain Syndrome : CRPS) : 骨折、捻挫、打撲などの外傷をきっかけとして慢性的な痛みと浮腫、皮膚温の異常、発汗異常などの症状を伴う難治性の慢性疼痛症候群のこと ▼1994 年 国際疼痛学会 (IASP) は、「反射性交感神経性ジストロフィー-RSD」と呼ばれる疾患の中に交感神経非依存性痛 (SIP) が存在することから、「交感神経性 sympathetic」という言葉を使わないように以前の分類を改定し、RSD を複合性局所疼痛症候群タイプ 1 (CRPS type I) とした。type I は神経損傷がないものとし、type II を神経損傷と関連する「カウザルギー-causalgia」としている。<上記事例では type を含め確定できていません。>